

マートコミユ  
ティー関連

# 新社内カンパニー設立

3年連続 毎月売上7.7%増

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

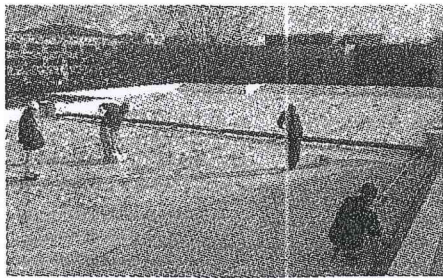
「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

## 無孔質ファインセラ利用の水系遮熱塗料



昨年12月に施工した独立行政法人防災科学技術研究所のコンピュータールーム棟屋上工事

日本中央研究所はトヨタ自動車ベンチャー企業第1号で、トヨタと信越化学工業の共同出資会社アドマテックス(愛知県みよし市)と共同で遮熱塗料「アドグリーンコート」(商品名)を開発した。遮熱塗料で多用される多孔質セラミックスではなく、アドマテックスが開発した真球状無孔質ファインセラミックス

(原料名・アドマファイ)を使用したのが特徴。アドマファイは金属ケイ素やアルミナ多量金属粉末を、爆燃現象を利用し酸化してつくる。無孔質で粒子同士の凝着がないため分散性が良好、粒度分布もシャープで配合コントロールが容易といった特徴がある。高熱伝導・低熱膨張・耐熱向

日本中央研究所(東京都江東区、間中恭弘社長、電話03-3599-0441)は、水系遮熱塗料の営業体制を整備、本格受注活動に入った。昨年後半から大手の化学品専門商社など5社と代理店契約を結び、台湾の商社とも連携して国内外

で、高い反射率と排熱機能によりCO<sub>2</sub>排出量の削減、ヒートアイランド対策、職場・住環境の改善に貢献する。すでに自動車部品メーカーの工場屋根など大規模工事も手掛けている。今後も代理店の技術営業力をさらに高め販路を進める。

### 日本中央研究所

5社と代理店契約

## 台湾社とも連携

市場での需要開拓に乗り出した。同製品は無孔質ファインセラミックスを応用した遮熱塗料

# 国内外で本格市場開拓

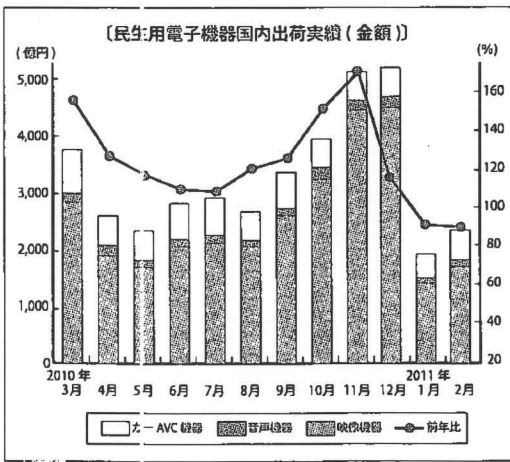
上などの機能から薄型平導体の封止材として世界的に高シェアを得ている

ほか、自動車、医療、化粧品など多方面で使われている。アドグリーンコートは同素材を塗料に応用したもので、太陽光の反射とともに熱線も遮蔽するため、建材や建物の温度上昇を防ぐほか、熱だまりを解消する。エアコンの温度設定を軽減でき省エネ効果を実現、空調負荷を低減して職場環境を改善する。これまでに自動車部品メーカーの工場屋

根約2万平方メートルを受注したほか、洋上石油備蓄基地、大手通信会社の通信基地局、工事現場の事務所棟、物流倉庫などに実績をつくっている。この間、営業ネットワーク構築を図ってきたが、すでに化学品専門商社など5社と代理店契約を締結。また台湾の有力化学品商社とも連携し、中国、東南アジア地区への営業展開も始めた。昨年、東京都中小企業振興

公社などの支援のもと台北で塗料展示会に出展、PRしたほか、今年6月の中国・北京での環境展にも参加する予定。同社は、日本カーボンオフセットとカーボンオフセット契約を締結、インドの風力発電の排出権を取得した。遮熱塗料の適用先は広く、CO<sub>2</sub>削減に貢献できる(田中雅彦取締役営業本部長)とエゴ商品としても売り込む。

### 2月の民生用電子機器 国内出荷、減少続く



電子情報技術産業協会(JEITA)は、2月の民生用電子機器の国内出荷実績をまとめた。出荷金額は前年同月比11.8%減の2310億円となり、2カ月連続のマイナスとなった。分野別で

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

「電力流通システム事業」「鉄道・自動車システム事業部」「ソリューション事業部」「自動化機器事業部」「電皮システム事業部」

は映像機器が同12.0%減の1667億円、音声機器が同26.0%減の101億円、AVC機器が同8.2%減の542億円、6カ月連続のマイナスとなり、年初から前年実績を下回る状況が強調されている。カーナビゲーションシステムは同4.4%減の41万1000台、5カ月連続のマイナスとなった。ETC(電子道路料金支払いシステム)は前年同月比16.4%増の162万2000台、2ヶ月前増が続いている。またブルーレイディスク(BD)レコーダー/プレーヤーも同36.0%増の39万6000台、引き続き好調に推移している。内訳はBDレコーダーが同37.2%増の36万7000台、BDプレーヤーが同22.4%増の2万9000台だった。一方、DVDレコーダーは同22.9%減の14万6000台で前年割れが続いており、BDへの世代交代が顕著となっている。